

平成30年度 鈴鹿中等教育学校・鈴鹿高等学校(中高一貫) 保護者アンケート			7月				12月			
			そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない
1	教育目標	学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されて建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐまれている	43.2 %	53.3 %	3.6 %	0.0 %	41.1 %	53.2 %	5.3 %	0.4 %
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの能力に応じた適切な指導をしている	41.3 %	48.0 %	9.6 %	1.2 %	47.2 %	41.9 %	10.2 %	0.7 %
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	43.7 %	46.6 %	9.4 %	0.3 %	46.6 %	47.3 %	5.3 %	0.7 %
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	38.6 %	47.2 %	13.3 %	0.9 %	41.1 %	51.1 %	5.3 %	2.5 %
5		一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる	45.9 %	43.6 %	10.2 %	0.3 %	45.9 %	45.6 %	7.1 %	1.4 %
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	41.9 %	44.5 %	11.6 %	2.0 %	44.5 %	43.5 %	11.0 %	1.1 %
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	47.1 %	46.5 %	6.1 %	0.3 %	50.9 %	41.3 %	6.7 %	1.1 %
8	教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である	57.5 %	37.2 %	5.0 %	0.3 %	60.8 %	34.3 %	4.6 %	0.4 %
9	家庭との連携	学校からの情報はホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	41.8 %	49.4 %	8.5 %	0.3 %	48.4 %	42.4 %	8.1 %	1.1 %
10		保護者会活動が活発である	32.0 %	55.7 %	11.7 %	0.6 %	29.9 %	59.1 %	10.3 %	0.7 %
11	満足度	子どもを入学させてよかった	62.1 %	32.7 %	5.0 %	0.3 %	68.9 %	26.4 %	3.9 %	0.7 %

建学の精神「誠実で信頼される人に」

学園の標榜「すべては生徒のために～生徒が輝く学校づくりをめざして」

教育実践目標

- 1. 主体的な学びを育み、真の学力を養成します
- 2. 自主・自律の校風づくりをします
- 3. 違いを認め合い、自他を尊重する仲間づくり

平成30年度重点目標及び行動計画

- 1. 教科指導力の向上に取り組みます
- 2. 進路指導の充実を図ります
- 3. 生活指導を徹底します
- 4. 人権教育を推進します
- 5. より魅力ある学校づくりを推進します
- 6. 教育環境の整備等を行います



1 教科指導力の向上に取り組みます。

- ① 授業力向上プロジェクトの推進  
教員間の授業公開と授業研究、生徒・保護者の授業アンケートの実施（各年2回）
- ② 公開授業研究会の開催（平成31年2月予定）



2 進路指導の充実を図ります。

- ① 大学合格実績の向上  
難関大学合格30人以上、センター試験各教科全国平均点+10%
- ② キャリア育成プログラムの一層の充実  
「知の探究者～World Explorer Program」新設
- ③ 海外留学・海外大学への進学を支援するための調査・情報収集

3 生活指導を徹底します。

- ① 基本的な生活習慣の確立  
（中）あいさつ・清掃・時間を守る （高）自主自律
- ② 生徒会活動の活性化
- ③ クラブ活動時間の適正化 休養日をきちんと取ります。（中）  
通年下校時刻を18時とし、部活動を奨励します。



4 人権教育を推進します。

- ① いじめの早期発見・早期対応 未然防止
- ② 生徒の自尊意識・人権意識の向上
- ③ 命を大切にす取組

5 より魅力ある学校づくりを推進します。

- ① ブランド力の向上、受験者数の増（目標450名）
- ② 効果的な広報活動 学校紹介動画の制作・活用
- ③ 地域貢献活動の取組 小学生向けの楽しく学べるイベント開催  
「あそびとまなびの体験ラリー」



6 教育環境の整備等を行います。

- ① 情報メディア教育センターの開館時間の延長
- ② イートインコーナーの適正運用、温かい弁当提供
- ③ 武道館のエアコン設置、オンライン英会話のための回線容量の強化、
- ④ 国際交流機会の充実
- ⑤ 英語検定等各種検定の取得奨励および外部コンクールへのチャレンジ奨励



学年目標

1年「論理的思考力と社会的知性を有するGlobal Citizenの育成」

- ・数的処理、言語処理能力に長けた生徒を育成する。
- ・想像力を持って人の気持ちを考え、違いを認め合える学年集団をつくる。
- ・国際理解教育の充実を図り、世界を多角的に捉える生徒を育成する。

2年「向上心を育む」

- ・医進・選抜コース選抜二次審査の受験100%
- ・英語検定試験の受験100%（4級合格100%。3級以上合格30%）
- ・学力推移調査（11月）で偏差値60以上各教科25人以上

3年「TS（テーマスタディ）活動を通じて、探究・研究のノウハウを身につける。」

- ・自分が研究する領域について徹底的に調べ、考察し、発表する。
- ・学習する意義を自覚し、主体的に活動する姿勢を身につける。
- ・英語検定上級取得を目指す（2級10名以上、準2級50%以上、3級100%）

4年「知的好奇心の喚起。知見・教養・経験の自主的な獲得へ」

- ・授業と家庭学習を軸に据えた、高校生としての生活・学習スタイルを確立する。
- ・TS（テーマスタディ）を継続して実施し、学問・研究領域の発見、大学で触れる学問への意識を高める。
- ・学校主催の進路プログラム、学校行事に加えて、学校外のプログラムにも積極的に参加し、様々な人と関わり、自分を語る機会を増やす。

5年「受験に向けた学習習慣の定着および明確な進路意識の確立」

- ・こなす学習から、主体的な学習習慣の獲得へ11月進研模試、1月全統模試英数国総合において、学年過去最高の平均偏差値を目指す。
- ・学校行事に全力で向かえる集団作り
- ・高い目標を掲げると共に、志望大学・学部決定率100%を目指す。

6年「挑戦」

- ・最後まであきらめることなく、第一志望校合格を目指す。

各教科の目標および自己評価（中間・年度）

ホームページに掲載していますのでご覧ください。

学校法人 鈴鹿享栄学園

# 鈴鹿中等教育学校

学校法人 鈴鹿享栄学園

# 鈴鹿中学校・高等学校

## 平成30年度 [ 入試対策部 ] 自己評価

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 受験生・保護者、学習塾 への情報（≒鈴鹿の魅力）提供力の強化 ⇒志願者数増&amp;定員確保</li> <li>◆ 鈴鹿の魅力の創出（≒見える化）</li> <li>◆ 鈴鹿中等教育学校のブランディング ⇒認知拡大、イメージアップ、志願者の裾野拡大</li> <li>◆</li> <li>◆</li> </ul>			
具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策	
1 募集イベント内容の大幅見直し (前年踏襲からの脱却)	◎第1回学校説明会(6月)約200組500名参加(前年度比118%)施設見学に在校生を起用し高評価 ◎第2・3回学校説明会の内容の大幅改変を企画 ◎新たなイベントとして、鈴青祭の公開、英語塾対象説明会、あそびとまなびの体験ラリーを企画・実行 ○教員向け研修会を7月に実施  評価： A B C D	◎第2回学校説明会(10月)を児童対象入試対策講座と保護者対象説明会&相談会とし高評価 ◎第3回学校説明会(11月)では初の授業公開を実施 ◎全イベントにおいて小学生の参加者数の大幅増加 ◎塾対象説明会(9月)に加え、英語塾対象説明会・授業公開を実施(21塾29名参加)高評価  評価： A B C D	2年間で既存イベントの検証、イベントの見直しを実施し、一定の効果が期待できた。次年度は今年度のイベントでの課題を洗い出し、ブラッシュアップしてイベント参加者数増と、参加者の満足度を高めていく。	
2 タイムリーな情報発信(特に在校生の様子の発信、鈴鹿のファンになってもらうという観点)	◎ホームページ更新業務を分担し、行事だけでなく、日常の学校生活の様子も頻繁に発信ができた。 ◎イベント情報の告知開始時期を前倒し、参加者増につなげられた。 ○広報誌やデータブック、学校紹介動画など新たな媒体を計画中  評価： A B C D	◎年間を通じて、ホームページを活用した情報発信強化。分掌内の業務分担、情報メディア教育センターの協力体制の構築 ◎イベント告知の期間及び方法の改善で参加者増 ◎次年度に向けた新媒体製作の道筋(データブック、学校紹介動画 など)  評価： A B C D	引き続きWEB媒体でのタイムリーな情報発信を継続する。さらにより細かい情報、日常の学校の様子などを知ってもらえるようなコンテンツや媒体にレベルアップさせていく。	
3 情報の厳選・効果的な発信手段の開拓 →学校紹介動画の制作、WEB広告等の試行	◎紙媒体、WEB、説明会、個別相談 などあらゆる媒体で方向性を統一してPRすることができた。特に教員研修の機会を意識の統一を図られた。 △動画コンテンツ、WEB広告など新たな情報発信手段の開拓には着手できず、下期で出来る限り試行する。  評価： A B C D	◎紙媒体・WEB媒体・イベント・広告などの各媒体と教職員の協力をリンク、統一感あるPR実施 ◎Google、YahooでのWEB広告(リスティング、ディスプレイ広告)実施 ◎学校紹介動画の製作、活用  評価： A B C D	外部広告を厳選し、効果の高い媒体に集中していく。特に四日市エリアの掘り起こしを実施。WEB広告、学校紹介動画の活用を幅を広げる。広報媒体製作業者の変更で、新しい観点でのPR方法を積極的に取り入れる。	
4 行政・地域との協働 →公益性の高い内容のイベント企画(特にオープンキャンパス)、学校施設の活用等	◎あそびとまなびの体験ラリーにおいて、鈴鹿市・亀山市教育委員会の後援により全小学校での告知を実現。約300家族・500人の児童の参加につなげられた。私立中フェアも津市教育委員会の後援により来場者数増につなげられた。  評価： A B C D	◎あそびとまなびの体験ラリー、私立中フェアなどの受験者層の拡大の趣旨に沿った情報発信実現 ◎体験講座、情報メディア教育センターの活用、授業公開や鈴青祭公開などの公益性の観点でのイベント企画により中長期的な募集効果に期待  評価： A B C D	あそびとまなびの体験ラリーの後援を、鈴鹿市・亀山市に加え、津市・四日市市も対象として検討する。体験講座のコンテンツをブラッシュアップする。	
5 入試制度改革も含む、志願者数・第一志望者数増	◎前年度の課題をふまえた入試制度の改定を実施、特に専願制度の拡大をPRコンテンツとして活用し、丁寧に周知に努めた。 ○塾対象説明会の案内送付先を精選。下期に実施される残りの説明会等での発信を強化していく。  評価： A B C D	◎専願制度変更の周知徹底で、大きな混乱なく実施。合否判定の貴重な情報に。出願者実数の増加 ◎入試当日のノバルティ配布、応援ボード、合否通知封入物、保護者向け説明会など入試での接点の活用を試行 △中上位層の歩留り低く、中上位層への魅力の発信不足の改善要  評価： A B C D	専願制度変更は引き続き周知徹底に努める。さらにWEB出願導入となった場合には、利便性を損なわないよう周知を徹底する。全ての学力層を意識した情報発信内容を検討する。	

平成30年度 [ 総務部 ] 自己評価

年度目標	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
<p>◆学校運営、学校行事、日常の業務が滞りなく行われるよう計画・立案し、統括する。 ◆保護者会活動を活発に行うことで保護者と学校との連携を深める。 ◆同窓会活動を通し、同窓生と学校のつながりを強化する。 ◆目指す防災教育目的「全員生存」に向け、巨大災害発生時に生徒・教職員の生命を守る。</p>			
<p>1 会議資料、役割分担、保護者宛て文書発信、スクールバス運行・コンビニや制服販売などの営業連絡、メール配信、打ち合わせ黑板、連絡モニター等、様々な業務を適したタイミングで行うとともに、前年度踏襲にとどまらない新しい要素の取入れや見直しを行う。</p>	<p>◆学校運営、学校行事(案内発送等含め)、日常業務(スクールバス運行、メールチェック、打ち合わせ黑板、三年制との行事や駐車場の調整など含め)をなんとかこなすことができた。 ◆第2職員室のPCやロッカーなど環境整備も行った。 ◆ロッカーや机の鍵の不明が14件あり注文を行った。鍵の管理徹底の声かけで不明をゼロにしたい。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>学校行事や日常業務について、何とか運営することができた。それに伴う業務(スクールバス運行・チャイム設定・についても大きな問題がなく終えることができた。台風などの天候判断、バス運行、第3グラウンド、土手返却にともなう駐停車場の変更など、概ね適切なタイミングでメール配信や文書案内できたが、業務の見直し、改善はあまりできなかった。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>年間を通し業務をこなす事が精一杯で、業務の見直しまではなかなか着手できなかった。次年度は分掌内での業務分担、簡略化、ICTの積極的活用などの工夫を行い、勤務時間内に処理できる業務内容への変更を行う。また総務部内だけでなく、他の分掌との連携・業務分担などを見直しも行いたい。</p>
<p>2 保護者会本部役員と学級委員で構成する広報部・研修部・厚生部の活動に理解・協力を得、チラシ、HP、メール配信などを通じて保護者会主催行事等への保護者・教職員の参加依頼をより強化する。</p>	<p>◆広報誌発行に向け、内容の確認および取材など精力的に進めている。(広報部) ◆鈴6発見Dayおよびバザーについて、参加人数の増減があったものの、概ね良好に終えることができた。鈴青祭文化の部では新しい取り組みとしてハーバリウム教室を行った。(厚生部) ◆保護者会主催の講演会を腰塚 勇人先生を招いて行った。「命の授業」として大きく心に響く講演で、生徒向けに人権講話としても繋げることになった。◆9月より保護者会担当者が不在となるので業務の分担が急務。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>研修部会では保護者会総会時に人権講話(命の講演)を行ったほか、鈴青祭時にハーバリウム教室を行うなど新しい取り組みができた。月に一回の保護者会役員会では、保護者会運営に関する会議を行った。保護者会の主担当であった加藤先生が不在の中、教頭や総務部の他の担当で保護者会との橋渡し役を行った。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>保護者会と名称が変わり2年目となり、予算の用途変更などの課題もあるが、広報活動や鈴6発見Day、バザー、講演会などの行事も例年通り行う事ができた他、ハーバリウム教室など新しい取り組みもできた。今後も時代の流れに合った保護者会のあり方が求められるが、行事の日程調整や学校関係者との連絡など保護者会の円滑な運営に協力していきたい。加藤先生が不在となり次年度は新しい保護者会担当者になるが、現行の良い部分を継承していきたい。</p>
<p>3 広報誌を通して同窓会の活動を同窓生に伝え、理解・協力を得る。</p>	<p>◆同窓会の円滑な運営に向けて同窓会役員や各期幹事と連携を取りながら、会則の見直しを行うことができた。 ◆卒業生の現住所の把握と卒業生住所録の更新を行うことができた。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>学年会の充実に協力したため、28期生入会にめだつての説明や同意書の回収を円滑に行うことができた。卒業記念品として新たにペンスタンドを寄贈することとなった。記念品の中身や在り方については引き続き検討する必要がある。キャリア教育プログラム実施にあたって、同窓生4名の協力を得ることができた。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>任意加入の中での入会者確保や卒業記念品の在り方など課題が多い一年であったが、役員とも連携を図りながら少しずつ見直ししていくことができた。今後は学校と同窓生が連携を取りながら、生徒ひとりひとりの学びに寄与できるような仕組みを作り上げていきたい。</p>
<p>4 防災教育を充実させ、生徒・教職員の防災意識をより高めるとともに、火災・地震の発生時に安全に避難できるよう、校内の危険箇所・避難経路をチェックする。</p>	<p>◆避難訓練時に防災ノートを使った学習ができた。 ◆例年並みの避難訓練を4月と9月にできたが、9月より防災安全委員長が不在となるので総務部や他の分掌の力も借りなどして、業務分担をしていかなければならない。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>2回の避難訓練を行ったが毎回同じ内容で最低限の避難訓練で終わった。避難時の備蓄倉庫の物資確認を行った。本年度は防災の5か年計画が終了する年であり、次年度からの新5か年計画を計画している。防災関連購入品の見直しやより実際起こりうる非常時を想定した計画に見直している。主担当であった加藤先生が不在の中、中高で協力して防災計画を考えている。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>次年度は、避難訓練時に消防署員などの専門家を呼んで防災講話を行いたい。実際起こりうる非常時の想定から、避難訓練や防災備蓄品購入の改訂を行い、南海トラフ巨大地震などへの対応を危機感と現実味を持ってあたっていく。長年、防災を担当してきた加藤先生が不在となり、次年度は防災安全委員長が交代するが、中高で合同訓練や、よりレベルの高い防災準備や活動を行っていききたい。</p>

平成30年度 [ 教務部 ] 自己評価

年度 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教科指導力の向上</li> <li>◆教育課程の点検と研究</li> <li>◆授業時数の確保</li> <li>◆シラバスの点検と見直し</li> <li>◆備品の管理</li> </ul>	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
	具体的な計画の目標・評価方法			
1	<p>学年主任会議・教科会議との連携を深め、「学びある教室」の実現と教員研修などを通じて教科指導力の向上を図る。また、確かな学力の育成を図る。</p>	<p>まだまだ学年間、教科間で授業を見合うことが日常的に行われている状況にはない。学年主任の先生方と連携し授業力向上に取り組んでいく必要がある。また、授業の向上も必要だが、進路指導部と連携しながら学力の保障にしっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>評価： A B <b>C</b> D</p>	<p>2月8日に学年主任の先生を主とし外部の方を交えた研究会を開催した。研究会そのものの意義はもちろん大いにあるが、「どういった学年をつくるのか」といった視点での事前準備や事後研修会等の意義の方が大きいと思われる。学年での授業研究や学力向上のために内部のみでも定期的にこういった活動を行うことが今後のために大きな一歩となった。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	<p>やはり日常の授業の公開という点ではまだ物足りない。学年目標を学年で共有し、生徒を伸ばしていくために次年度はさらに授業公開を行っていく必要がある。内部のみでも構わないので今年のような授業研究を数回行うことも改善点の一つと考えられる。</p>
2	<p>新大学入試を見据えたカリキュラムの点検と研究・中等教育学校のカリキュラムの充実を図る。(文理共通カリキュラムの見直し)</p>	<p>多くの新大学入試や学習指導要領の改訂に向けた講習会や研究会に個人で参加している。それらの情報を共有し、年末を目途に教科主任会議・教科会議で検討してカリキュラムを見直してしていきたい。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	<p>文理共通のカリキュラムの見直しを秋以降検討し5年次からの文理選択のカリキュラムがほぼ完成しつつある。新たな学習指導要領の改訂も考慮し、継続的にカリキュラムの見直しを行っていく必要がある。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	
3	<p>道徳・総合の時間も含め、授業時数のさらなる確保を目指していく</p>	<p>2年前は204日の授業日数であったが昨年度は210日と確保はできた。出張などで自習となる授業を時間割の変更で自習とせず振替で確保していくことは昨年度同様出来ている。今年度は懸念であった6年の授業日数を多少ではあるが延ばしていくため授業日数も増えるはずである。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	<p>今年度も月1回程度の土曜日の運用の効果もあり授業日数は確保できている。授業がカットされていく曜日に偏りはあるが、非常勤の先生方の出勤の関係で振り替えることが難しい点が今後の課題である。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	<p>祝日の多い月曜日や行事の多い金曜日など致し方ない点もあるが、出来る限り行事等を他の曜日に行っていくなどの工夫をしていく必要がある。</p>
4	<p>備品の管理と発注を適切に行う。また、節約にも努める。</p>	<p>備品の管理と発注については概ね滞ることなく行うことが出来た。コピー用紙は、授業の教材や通信に用いるため節約にも限度はあるが、出来る限り節約したい。</p>	<p>先生方のご協力もあり、ある程度の節約も出来た。全ての消耗品の積み重ねも多大な経費につながるため全員が大切に使用するという意識を今後ももっていききたい。</p>	

評価： A B C D

評価： A B C D

平成30年度 [ 進路指導部 ] 自己評価

年度目標	① 明確な進路目標の発見と適性を養うとともに、絶対的な学力向上によって第一志望の実現を促す ② 教育制度改革・入試制度改革に伴う多様な入試や多面的・総合的評価に対応した取り組みの体系化を図る ③ 医進・選抜コース、中等教育学校の特質強化に向けた取り組みの試案・試行 ④ 進路指導室の充実と業務の円滑な遂行に努める			
具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策	
1 教務部と連携し、数値目標達成に向けた施策を練る。(継続的に難関国立大学30名以上合格できる集団づくり)	6学年の模試成績を職員会議へ報告。分析を教科担当者全員に配付。全学年の定点観測としての学力推移調査・スタディーサポート成績分析についてはベネッセより学年単位での分析を聴き、11月に向けての課題を知る。6学年は医進・選抜コース初年度卒業学年として数値目標達成に向けて鋭意努力中。 評価： A (B) C D	高大接続・入試改革についての教員研修実施や当該学年担当者への各種研究会参加による情報共有の機会を設定。医進・選抜コース初年度生については学年団を中心として6年間を通じ志望意識を高めながら実践的な指導の成果。ただし特進コース生徒の学力底上げの指標となる平均点の低さは教科指導充実の急務を示す。急遽変更の第2回志望校検討会形式については概ね好評。模擬試験有効活用に向けた整理。 評価： A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力増進に向けて教務部(学習指導/教科主任会議)との連携の道筋を具体化し実践面の強化を図る</li> <li>・5-6年の個人面談～教科担当者会議～志望校検討会の連携を確立する</li> <li>・学年内での進学指導の具体化</li> </ul>	
2 教科学習や各種プログラムを通じて幅広い教養を身につけ自己・他者・社会への洞察を深めさせる(各種プログラムの充実と取り組みの総合)	医系進学者育成については昨年度に引きつづき、希望制のプログラムと潜在的医学部進学者の発掘を目的とした全員プログラムとを実施。三重大学付属病院主催のすい臓がん啓発活動にも27名が参加するなど、生徒たちが積極的に医学・医療への関心を深める契機となっている。活動実績の蓄積方法(ポートフォリオ)が残された課題。 評価： A (B) C D	文系の素養を高め、グローバル人材育成を企図した「知の探究者WEP」の創設と3月の職業観・労働観を養う講座をもって、昨年度からの課題であった「キャリア教育の体系化」については全領域を網羅し一定の達成をみた。医系進学者育成については「適性を養う機会」と「医学部受験」の両輪を確立させることが課題。 評価： A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医系進学者プログラム」における「医学部受験」に向けた実戦編の整備</li> </ul>	
3 医進・選抜コース、中等教育学校の特質強化に向けた取り組みの試案・試行	夏期講座における1年～3年縦割りの実践的な英語講座【SELECT】を実施。中等教育学校「グローバル人材育成」出口としての海外進学について、卒業生による講演会を実施。特に低学年(1,2年)保護者の海外進学・留学への関心の高さが実感された。 評価： A (B) C D	校内外からの要請に応じる意味もあり、私立中学では実施の少ないインターンシップを中等教育学校1期生3年次を実現させる準備を進めている。単なる「職場見学」ではなく大学への進学意識を高めたり専門性を考えさせる等、進学校としての体系化された取り組みとする。 評価： A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【SELECT】の継続実施</li> <li>・「グローバル」の出口としての海外進学・留学</li> <li>・インターンシップ受け入れ先の確保</li> </ul>	
4 適切な任務分担による分掌業務の可視化と円滑な遂行	多岐にわたる進路指導部の分掌業務の可視化が急務。分掌全体としてはまだまだ不完全であるが、6学年直結の業務については分担による引き継ぎができてつつある。 評価： A (B) C D	今年度は任務の分担を適切に行うことができ、格段に業務がスムーズに運んだ。キャリア教育の体系化が一定の達成をみたところで、外部との折衝や実務を複数で担当する時宜を得た。 評価： (A) B C D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容の可視化と共有(全体のものとする)のためにも独立させる</li> </ul>	

平成30年度 [ 生活指導部 ] 自己評価

年度目標		自主・自律の意識を持たせる指導 生徒一人ひとりが安心して過ごすことができる学校づくり			
具体的な計画の目標・評価方法		年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策	
1	生活規律の確立	「あいさつ」指導の強化・徹底	毎朝の登校指導ではほとんどから挨拶が返ってくる一方、自分からまたは大きな声でという生徒の割合が多くはないように感じる。日常からの指導。教員の挨拶するという姿勢から全体へと波及させていきたい。	毎朝の登校指導ではほとんどから挨拶が返ってくるというレベルで止まっている。自ら挨拶するという習慣がいまいちついていないように感じる。とっさの場面でしっかり挨拶ができる生徒を育てられていない。	学年やクラブの中で指導をお願いしたい。また生徒が発信する機会を増やし、言葉遣いなどの面でも、多様な入試に向けてお願いしたい。生徒会のあいさつ運動がマンネリ化しているので形を変えていきたい。
		「身だしなみ」指導の強化・徹底	日常的には学年・担任にお任せをしている。冬服に変わるタイミングで乱れが起きやすいので、生活指導部からも声掛けをすることや、生徒会とともに全校生徒にアプローチしていきたい。	日常的には学年・担任にお任せをしている。冬服に変わるタイミングでの大きな乱れはなかったものの、靴下やカーディガンなどの違反は一定数高等部にいる。生徒会と制服についての話をして注意喚起をおこなった。	リボン・ネクタイの選択制の導入とともに格好良い制服の着方について、今一度生徒たちに考えてもらいたい。また生徒会を通じた発信を積極的に行っていきたい。
		「時間を守る」指導の徹底(ベル授業・下校時刻の徹底)	ベル授業ができていない学年とそうでない学年がある。教職員全体として取り組みたい。冬時間がなくなることあっても、下校時刻が徹底されていないので、10月から下校時間を守るようアナウンスしていく。	ベル授業は多くの学年で取り組んでもらっていた。しかし移動教室の際の遅刻が一定数いる。下校時間が特に守れていなかった。学年やクラブでの管理も含めて教員が促していくことがもっと必要であると感じた。	遅刻届に捺印をする際に、指導を各先生でお願いしたい。特に複数でいる場合に反省していない様子もある。EMCの開館時間と下校時間に違いから、EMC使用ルールをはっきりさせないと下校時間がいい加減になって
4	交通安全・登下校指導	自転車保険の加入を促し、前期課程生ではほぼ全員が加入をした。高等部でまだ未加入者がいるので100%を目指していきたい。徒歩・自転車ともにイヤホンでの登下校が目立つので、後半の重点課題としていく。ヘルメットの顎ひもが緩い生徒が増加したので指導をしていく。	大きな交通事故がなかった。校内付近でのヘルメット着用はできていたが、校外に出た時に着用されているのか確認が必要である。軽度な事故の報告システムが確立していなかったため、報告書類等を作成した。次年度では各担任まで報告してもらえよう案内する。	3月の学年末で自転車保険の案内を行い、加入率100%を目指す。事故報告システムの案内。	
		「時間を守る」指導の徹底(ベル授業・下校時刻の徹底)	日常的には学年・担任にお任せをしており、学年でしっかり対応してもらっている。随時、報告をもらい生活指導部として指導に関わることができている。新たな問題の対処など、記録をつくり今後の指導につなげる必要がある。また事後ではない関わりをしていけるよう取り組みを考えていきたい。	日常的には学年・担任にお任せをしており、学年で対応してもらっている。その中で早期に生活指導に報告・相談をもらった案件は早くに決着がついている。スマホに関わる案件が増加しており、トラブルの解決を困難にしているケースがある。その取扱いを今後考えていかなければならない。	保護者対応の一步目が大切である。担任はすぐに学年主任に相談し、記録をしっかりとっておくことをお願いしたい。スマホに関わる事案は、生徒への未然指導も大切であるが、起こった後の対応も迅速に行う必要がある。情報のスピードに対応していかなければならない。
5	生徒一人ひとりが安心して過ごすことができる学校づくり	日常的には学年・担任にお任せをしており、学年でしっかり対応してもらっている。随時、報告をもらい生活指導部として指導に関わることができている。新たな問題の対処など、記録をつくり今後の指導につなげる必要がある。また事後ではない関わりをしていけるよう取り組みを考えていきたい。	日常的には学年・担任にお任せをしており、学年で対応してもらっている。その中で早期に生活指導に報告・相談をもらった案件は早くに決着がついている。スマホに関わる案件が増加しており、トラブルの解決を困難にしているケースがある。その取扱いを今後考えていかなければならない。	保護者対応の一步目が大切である。担任はすぐに学年主任に相談し、記録をしっかりとっておくことをお願いしたい。スマホに関わる事案は、生徒への未然指導も大切であるが、起こった後の対応も迅速に行う必要がある。情報のスピードに対応していかなければならない。	



## 平成30年度 [ 生活指導（生徒会） ] 自己評価

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 皆が積極的に取り組める生徒会づくりを目指す。</li> <li>◆ 挨拶やマナー、ボランティア活動を通して、地域からも親しまれる学校を目指す。</li> </ul>			
具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策	
1	生徒会執行部会の運営 ◆ 鈴青祭に向けての活動を行った。 ◆ 鈴青祭間際になってからの下校時刻が遅く、計画性が足りなかった。 評価： A (B) C D	◆ 来年度鈴青祭に向けて、執行部会を行った。 ◆ 要望書の作成を行った。 評価： A (B) C D	◆ 鈴青祭前の下校時刻を守るように活動をする。 ◆ 生徒会執行部での活動は活発になっているが、学校全体に伝わるようにしていきたい。	
2	生徒議会の運営 ◆ 鈴青祭に関わる内容の各クラスへの伝達をきちんと行うことができた。連絡だけになっているので、もう少しみんなで議論できるように工夫が必要。 評価： A (B) C D	◆ 毎月の生徒議会では、要望書の進捗状況を報告することができた。 ◆ 生徒議会の活動内容について生徒会執行部との詳しい打ち合わせが必要だった。 評価： A (B) C D	◆ 活発な生徒議会・専門委員会を目指す。 ◆ 活動内容を把握することができたので、来年度に繋げられるようにしたい。	
3	専門委員会の運営 ◆ 月一回の活動を開催し、活動の報告用紙を提出させることで活動内容を知ることができた。 評価： A (B) C D	◆ 活動場所を年間行事として予約していたので、運営はスムーズに行うことができた。 評価： (A) B C D		
4	鈴青祭の運営 ◆ 体育の部の運営では、台風により練習時間が限られたが、6年生のリーダーを中心によく運営することができた。召集について改善策を考え実行したが、時間がかかっており、さらなる改善が必要である。 ◆ 文化の部の運営では二次審査を設けたことにより、動き出しが遅くなってしまったが、プログラムのバランスをとることができた。 ◆ 例年よりも舞台の衣装のままやメイクをしたまま客席に戻る生徒が少なく、執行部の注意喚起が良かった。 評価： (A) B C D	◆ 来年度の鈴青祭のテーマを募集した。 ◆ クラスTシャツ・各企画Tシャツのルール変更に伴い、デザインなどについて話し合いを行っている。 評価： (A) B C D	◆ 今年度、鈴青祭1日目について新しいルールを作成したが、見直すところがないか生徒会執行部と生徒会顧問で議論する必要がある。 ◆ 来年度も二次審査を行うのか、行うのであれば日程について考える必要がある。 ◆ 生徒会執行部だけではなく、学校全体で満足感や達成感をえられるような鈴青祭づくりを行う。	
5	ボランティア活動 ◆ 庄野地区の清掃活動に参加することができた。鈴鹿市のワークキャンプ（老人ホーム南山）には、日程が合わずに参加することができなかった。 ◆ 募金を行ったりSOMの活動と連携したりすることを考える必要がある。 評価： A B (C) D	◆ ボランティア活動を行うことはできなかった。 評価： A B C (D)	◆ 外部での活動にも積極的に参加していく。	

平成30年度 [人権教育・保健部（保健課）] 自己評価

年度目標		(保健) ◆自らの心身に関心を持ち、積極的に健康生活を送ることができる生徒を育成する ◆自らを大切にするとともに、他者への思いやりや生命を大切にしようとする生徒を育成する ◆建学の精神に則り、学校教育活動全体を通じて保健教育を行う ◆教職員の心身の健康の保持増進に努める		
具体的な計画の目標・評価方法		年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
1	健康診断をはじめとする各保健行事の円滑な実施	生徒健康診断では、先生方にご協力いただき、事後措置を含め円滑に実施することができた。心臓検診のみ二次検診(精密検査)未受診の生徒がいるため、受診を促していきたい。 職員健康診断に関しては、現時点で未受診の職員がいるため、受診率100%を目指していきたい。	生徒健康診断は、事後措置の精密検査含めて円滑に実施することができた。教職員健康診断でも全員の受診が終わり、受診率100%を達成することができた。が、教職員の二次検査まで促すことができなかったため、啓発を行っていきたい。	次年度も生徒・教職員ともに受診率100%を目指し、二次検査についてもできる限り追跡できるようにしたい。必須項目ではないが、近年の状況を鑑みて、生徒の「色覚」の検査を実施できるように体制を整えたい。
		評価： A (B) C D	評価： (A) B C D	
2	日常の救急処置・保健指導・健康相談の適切な実施	1学期は緊急を要する保健室対応が相次いだ。2学期になり幾分落ち着いた様子。養護教諭不在時の担当者を分掌内で確立し、救急体制を整えることができた。保健学習に関しては、今年度はまだ実施できていないので、年度内に計画する予定。	日常の救急処置、健康相談に関しては、個々のケースに応じて適切な対応を取ることができた。学年や教育相談などと連携を密に行うことで、生徒の情報を共有し、チームで支援を行うことができた。保健学習は2月末に救命研修を行う予定。薬物乱用、性教育は未実施に終わった。	心身ともに様々な事情を抱える生徒が在籍する中、常に最新の情報を入手し、一人一人に寄り添った丁寧な対応が求められている。今年度以上に各部署と連携をして、支援を行っていきたい。今年度できなかった薬物乱用防止教室、性教育も実施したい。
		評価： A (B) C D	評価： A (B) C D	
3	災害・感染症など、非常時への対応	現時点で具体的な取り組みは行っていない。今年度は各地で災害が相次いでいるので、早急に対策を考え、非常時への対応を万全にしたい。	感染症については、全館の手洗い石けんを整備したり、通信等で啓発活動を行った。災害時の対応については、救急用品の備蓄を少しずつ進めた。	引き続き啓発活動や、救急用品の備蓄を進めていきたい。リスクマネジメントを徹底し、災害や感染症が発生した際は、すぐに役割にそった動きができるように体制を整えたい。
		評価： A B C (D)	評価： A B (C) D	

平成30年度 [人権教育・保健部（環境・美化課）] 自己評価

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 1年間を通して、全校生徒で取り組む環境美化活動の強化。</li> <li>◆ 整美委員との連携を図り、生徒の主体的な取り組みを強化する。</li> </ul>			
	具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
1	全校生徒で取り組む環境美化活動の呼びかけをする。	<p>掃除用具の調整など、整美委員を中心に行うことができたが、掃除に対して学校全体が積極的に行えていないと感じた。後期は環境美化を中心に大掃除や清掃点検などを呼びかけ、生徒の美化意識を高めていきたい。</p> <p>評価： A B <b>C</b> D</p>	<p>最後の専門委員会で振り返り行くと、大掃除や清掃点検時にクラスでの呼びかけを行っていたクラスが多く、少し進歩したかと感じた。しかし、その効果が目に見える結果として表れていない。また、一部の生徒だけがきちんと清掃しているように感じる。</p> <p>評価： A B <b>C</b> D</p>	<p>掃除の仕方、用具の使い方を生徒たちが分かっていない。掃除の仕方を整美委員で事前に動画を作り、各学年の最初の時期（1年…オリエンテーション合宿時）などで共通認識する場を設けてみてほしいか考える。</p>
2	ごみの分別の強化を通して、リサイクルの意識を高める。	<p>ゴミの分別方法が1学期の途中で変わり、学校全体で呼びかけてみたが、まだできていない部分が多々ある。後期も美化委員を中心に、継続的にクラスで呼びかけ、規律の守れるクラスや生徒を増やしていきたい。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	<p>各クラスの整備委員や担任の先生によって、学校でのゴミの分別のルールが多く生徒に理解されてきた。分別されていない袋はほとんどなくなった。</p> <p>評価： <b>A</b> B C D</p>	<p>ゴミ箱の張り紙も汚くなってきたので近いうちに変更後の新しい紙を配布していく。</p>
3	整美委員と共に美化活動を行う。	<p>鈴青祭（文化の部）において、整美委員が中心となってごみの分別を行うことができた。しかし、地域によってゴミの分別方法が異なるため、ゴミの分別が明確に保護者に伝えられていなかった。次回は、保護者に対しても学校の分別方法を知らせて改善していきたい。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	<p>3学期は2学期と比べ、整美委員の仕事は少なかった。毎月の専門委員会時に各学年で数名残り、掃除チェックや、学校の周りの掃除などを行ってもいいか感じた。</p> <p>評価： A <b>B</b> C D</p>	<p>教室の状況や専門委員で出た案などを、生徒や担任の先生などと連携し、組織的に学校の清掃活動に取り組む必要があると感じる。計画的に専門委員会に時間を有効的に使う。</p>